



日産のCSR 重点8分野

経済的貢献 — 自らの成長によって社会の経済発展に貢献

日産は自らの持続的な利益ある成長によって、
社会全体の経済的発展に貢献したいと考えています。

そのために、グローバル自動車市場においてトップレベルの業績を確保し、
高い収益基盤を築くことを目指しています。

また、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに日産の戦略やビジョン、
経営計画に対する具体的な実行方法を迅速かつ正確に伝えることを重視しています。

■ 経済的貢献における2つの基盤

1. 経済的な企業価値の創造

世界的な金融・経済危機を受け、日産では売上増大、徹底したコスト管理、
フリーキャッシュフローの創出を柱とするリカバリー・プランを遂行してきました。
一方、さらなる成長に向けて、重点分野および市場への戦略的な投資も継続しています。
今後も適切な利益確保に努め、社会に対する価値創造を高めることを目指します。

2. 迅速で透明性の高い情報開示

株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。
日産の事業活動を正しくご理解いただくため、IR(株主・投資家向け広報)活動においては
迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。
さらに機関投資家のみならず、証券アナリストや個人投資家の皆さまに
的確な投資判断をしていただけるよう、情報提供の拡充に努めています。

経済的な
企業価値の創造

迅速で透明性の高い
情報開示

■ 経済的な企業価値の創造

将来を見据えた日産の成長戦略

日産はリカバリー・プランに基づく短期的な対応策を打ち出すと同時に、将来を見据えた中長期的施策にも注力してきました。今後も電気自動車「日産リーフ」をはじめとするゼロ・エミッションの領域でリーダーを目指すとともに、グローバル・コンパクトカーの投入、新興国市場でのプレゼンス強化などに取り組んでいきます。2011年度から開始される次期中期経営計画「日産パワー88」に基づき、それぞれの戦略を着実に実行していきます。

2010年度の重点施策と投資

2010年度は電気自動車「日産リーフ」の投入が始まり、日産のゼロ・エミッション戦略を本格的に始動する年となりました。今後2014年までにルノー・日産アライアンス全体で8車種の電気自動車を追加投入する計画で、2015年にルノー・日産アライアンス全体で、50万基のバッテリー生産能力を確保する予定です。このため、2010年度から英国や米国、ポルトガルなどでバッテリー工場の建設に着手しました。

また中国市場での成長は、2010年度のもうひとつの重点分野となりました。中国ではパートナーである東風汽車と協力し、8年前から大規模な投資を行っています。同市場の販売台数は2003年の9万4,000台から2010年には100万台を超え、いまや日産にとって最大の市場となっています。中国市場では中流層の拡大から今後も需要増が見込まれており、日産は北京にデザインスタジオを新設し、2012年に2010年初頭のほぼ2倍に匹敵する120万台の生産能力を確保できるよう、投資を行いました。



「日産パワー88」に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに掲載しています。併せてご覧ください。

<http://www.nissan-global.com/JP/REPORTS/2011/06/110627-02.html>

Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ

中期経営計画の戦略を着実に実行

IR部
主管
雨宮 一太



日産は2008年に始まった金融危機から順調に回復を果たしてきましたが、2011年3月に東日本大震災という想定外の状況に直面し、引き続き危機対応を余儀なくされました。これまでの危機と同様、今回の震災に対しても迅速かつ効果的に対応しています。しかし、そのために会社の中長期的な取り組みを犠牲にすることはありません。広範な企業活動の結果を反映するフリーキャッシュフローを管理指標としつつ、中期経営計画に基づくさまざまな分野での戦略を着実に実行していきます。これらの活動を通じて、強い販売力・ブランド力に支えられた高い収益性を実現することにより、中長期的な成長を確保し、持続可能な価値創造を果たしていきたいと考えています。

株主・投資家の皆さまへの広報（IR）活動

IR活動をグローバルに推進

日産はグローバルなIR活動において、一貫して迅速で透明性のある情報を開示することで、日産の企業活動を正しくご理解いただけるよう努めています。決算報告においては、四半期ごとに機関投資家への個別訪問や証券アナリストとの取材対応を行っているほか、証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況を積極的に伝えしています。また、株主・投資家の皆さまからの信頼をより強固なものとするため、投資家向けミーティングなどの場において、経営者層との直接対話の機会を増やすとともに、最高財務責任者（CFO）の厳格なコントロールのもと、公平で透明性のある情報開示に取り組んでいます。

日産は、株主や投資家の皆さまが投資判断をされる際に有益となる情報を適時かつ公平に開示することにより、株式市場からの信頼と安定的な株主価値向上に役立つIR活動の充実に取り組んでいます。

第111回定時株主総会

2010年6月23日、日産自動車（株）は1,701名の株主の皆さまにご出席いただき、「第111回定時株主総会」をパシフィコ横浜において開催しました。本総会では、議決権数報告および監査報告、2009年度の事業報告が行われ、引き続き本総会に出席された株主の方々との質疑応答が行われました。株主総会後には、電気自動車「日産リーフ」の試乗体験会を実施。走行中の排出ガスがゼロという特性を生かし、屋内で試乗いただくなど、株主の皆さまに日産の電気自動車を体感していただく絶好の機会となりました。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

日産はさまざまなIRイベントを通して自主的な情報開示を実施しています。2010年7月に実施した先進技術説明会では、環境技術や安全技術について説明し、「フーガ ハイブリッド」や衝突回避支援を行う実験車両などに試乗していただきました。12月に開催された「野村インベストメント・フォーラム2010」では、志賀俊之COOが2010年度の業績や日産の成長戦略について説明しました。また、日産の中国事業をより深く理解していただくために、広州モーターショーにあわせて、投資家や証券アナリスト向けのイベントを現地で開催しました。広州モーターショー会場では経営陣とのラウンドテーブルミーティングを実施し、花都工場の視察と中国乗用車事業についての説明を行いました。

また、事業活動の重要なパートナーである個人株主の皆さまとのコミュニケーションを強化し、充実させることを、日産のIR活動における重要な柱のひとつに位置づけています。個人株主の皆さまを対象としたウェブサイト「個人投資家の皆様へ」やメール配信サービス「NISSAN IR NEWS」により、迅速な情報提供に努め、日産に関するあらゆる情報へのアクセス機会を広げています。

ディスクロージャー優良企業選定で4年連続1位

日産自動車（株）は、（社）日本証券アナリスト協会主催の第16回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、自動車・同部品・タイヤ部門の優良企業1位に4年連続で選定されました。「ディスクロージャー優良企業選定」は、企業の情報開示向上を目的に、証券アナリストがアンケート形式で対象企業のIR活動を事業年度ごとに評価するものです。日産は、フェア・ディスクロージャーへの取り組み、コーポレートガバナンスや事業活動に関する自主的な情報開示、経営陣のIRへの積極的な取り組みなどが評価されました。

また、日産自動車（株）は日本IR協議会が選定する第15回「IR優良企業賞」を受賞しました。「IR優良企業賞」は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなど優れた成果を挙げた企業を表彰するものです。日産は、投資家の皆さまと経営層とのコミュニケーションの強化、ウェブサイトを通じた積極的な情報開示などが評価されました。



IRに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。

<http://www.nissan-global.com/JP/IR/>



ウェブサイト「個人投資家の皆様へ」

<http://www.nissan-global.com/JP/IR/INDIVIDUAL/index.html>



メール配信サービス「NISSAN IR NEWS」をご希望の方は、下記のウェブサイトよりご登録ください。

<https://www.nissan-register.jp/irregister/>